

インターバンクの声（2014年12月24日）

日本の金融機関にいる友人も年内のポジションは最小限に縮小、外資系にいる友人たちに至っては半数近くがクリスマス・正月休暇に入っており、次に連絡を取るのは来年1月5日だ。ロンドンやニューヨーク市場の外国人ディーラー達の多くが当然の如く休暇入りしている状態では、生真面目に会社に出てくる日本人も気分的に休暇モードになっているのも責められないシーズンになってきた。それでもさすがに昨晚のニューヨーク朝方に発表された米第3・四半期国内総生産（GDP）確報値の予想を上回る結果には市場も動かざるを得なかった。ドル円は、指標発表前に既に120円台に乗せていたこともあって何の障害もなく120円70銭台へ上昇した。気が付けばユーロも2年前の夏の安値1.20ドル台に手が届きそうなレベルまで値を下げていく。豪ドルは4年半前の安値0.80ドル台半ばを割り込むのかどうかのレベルに迫っている。ドル円が12月上旬に付けた121円台後半を超えていくかどうかは、ユーロや豪ドルの足許の値動きが大きく影響しそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。